・追加・変更箇所は赤文字で表記。改訂日付は最新のみを記載。
・このメモから、ご自身の必要箇所を楽譜に転記するなど有効活用して下さい。

初版 2024/05/14
改訂 2025/04/08

【DrunkenSailor】 変更と注意事項

＜曲を通じて＞

【演奏方針】譜面通りのテンポの上げ下げや強弱にも挑戦し、曲想を表現すべく、今までと違う感じに仕上げたい。★★そのために、練習ではカチッと丁寧に仕上げておく。
テンポの上げ下げの場所は意識して体に入れていってほしい。

【曲想】

・酔っぱらいの船乗りを茶化す歌詞にふさわしい煽り方やふざけ方を楽しむ。歌詞の意味（特に D パートの beans が何を指しているか、とか）を考えて、ニヤニヤしながら楽しく茶化す感じで面白く。そのためには、怖い顔で睨んで歌わない、まじめに歌っても歌詞にそぐわない。ワシャワシャとにぎやかに歌詞を楽しむ感じで歌う。
（ただ、いっぱいしゃべれないと歌っている側が面白くないのでしっかりしゃべれるように練習する）

・本番では、みんながふざけて楽しんで、最後盛り上がってエスカレートして Hey！で終わる。
A～C：慎重にゆっくり探り探り入ってきて、全パートが揃って一気に盛り上がるように。
D～：アクセル全開で、最後の Hey まで盛り上がりを維持。

・テンポの上げ下げや強弱は遊び感覚で楽しむノリを出して。歌い手のテンションと遊び心で曲想を創り上げる意識で盛り上げていく。酒場でわいわい楽しんでいるように。

【全体共通：発音、音程、音符と休符】 ★★記載以外の小節もこの考え方を反映し対応すること。

・音程（キー）が低くなっていく、テンション下がって聞こえてしまう。

・「D」の B2 パートは B2 らしく重たく響かすことを淡々と繰り返す。これで上パートの掛け合いがおもしろくなる。上パートは B2 の入りの後、くだらないひそひそ話がみんなに伝播していく遊び感を出したい。

・「G」の入りも「D」と同様、ひそひそ話が伝播していって最後バーンとはじける。

・アツアツの玉こんにゃくを口に入れて歌う。荒くれだが、汚くなく粋な不良を目指すためには縦で歌う。
（横に広がる歌詞が随所にあり over the とか、「あ」の発音と長音時の横広がりが目立つ）
（D）の「rye and rhu-barb」でも、縦を意識すること。

「early in the morning」：盛り上がるのは素晴らしいが、横に広がっては台無し。

・Sailor は　二重母音、L(エルの発音)を正しく。

・early は「əːli」ではなく「əːlai」（アーライ）。アーラーではない。

・早口の歌詞は、慣れるまではカタカナで覚え、慣れたらそれっぽい発音に変えるのもやり方の一つ。

What shall we do は ワッ/シャルウィ/ドゥ。　×わっしゃうぃどぅ　×ワッシャル　ウィドゥ。

17～18 小節　T1T2　boat は慣れるまで「ボト（ボートと伸ばさない）」とし、「ボトアンティル」とつなげる。until の「til」が小節の頭の拍でオンビートになること。ここで「un」と遅れると目立つ。

33 小節～ 「プラウザプラガンウェティムォ　ローヴァー(wet him all →wetim all)など。

・早口の歌詞(Way hey up she rises など)は、パート内でブレスを分散させて、全体として音が途切れないように。

・Way hey は、「音符の長さ」「最後の一拍をエイと強調」「休符ではバシッと切る」が重要。

一例：B1B2 の 9～10 小節　ウ^{1}エイ　ヘ^{2}イ　エ^{1}イ（8 分音符）で、バチっと切る（休符）。

T1T2 の 61～62 小節　ウ^{1}エイ　ヘ^{2}ーエ^{1}ーエ^{2}イ　。（ウ^{1}エイ　ヘ^{2}イ^{1}ー　ー^{2}　ではない）。

・early in the morning　のメロディの担当時は、音程（C A G E D D）を正確にしっかりと。

これが甘いと他パートのコーラス（いろんな面白い動き）が台無しになる。

例えば、46 小節～の T2。他パートがメロディに近い高音域にかぶせてきているので負けない。

・音が階段のように下がる時は、1 音 1 音を高目に意識して下がらないと、音程が低くなりすぎる。

・テンポがゆっくりに戻る箇所（17 小節、33 小節）のテンポ感は、T1T2 パートに任せるので、パート内でテンポを合わせて慎重に入ってもらってよい。その後のテンポアップは指揮でコントロールする。

＜個別事項＞　前述の「全体共通」に記載済の内容は割愛しているので忘れないこと。

（A）

・出だしのゆっくりは、示し合わせて歌いだすイメージ。

「じゃぁ、一発歌おうぜ、準備はいいかい？　セーノ、What's shall do with the～」という感じ。

（B）

・17-22 小節 B1B2 Wom は、そのまま Wom-（ウォム--）。Wo--m（ウォ--ム）　ではない。

・23-24 小節 B1B2 歌詞を入れる「ear ly morn ing」

（C）

・T2　（B）の rit.の後、ここは「ものすごくゆっくり」入るという意識で。

・33～38 小節　33,34 の出だしの T2 がしゃべりをしっかりそろえることが特に重要。

それによって、35 小節～の B1T1 がやまびこのような響きになる。

T1T2B1　最初からきちんと発音する癖をつけておく。

T1 が入る時点はスピード上がっているので、指揮に合わせてテンポ遅れないように入る。

・39 小節　B2　「the」の「E」が低すぎる。ここで下がると全体が低くなる。

・46～47 小節　難しい和音だが、しっかりとハーモニーを作る。

T2　メロディの音程・音量をしっかり主張（6/4 にも同じ指摘あり）して。ここが軸になって T1B1B2 のコーラスが生きてくる。

T1B1B2　メロディー(T2)をしっかりと聞く（6/4 にも同じ指摘あり）。聞かないと、独自路線になりハーモニーの音量・音程が壊れる（チューニングが合っていない、雑な感じになる）。 ※ただ、メロディラインと音の上下の動きが違うので混乱すると思うが、それに慣れてほしい。そうするとピッチがあってくる。

・46～47 小節　難しい和音だが、一音一音を正確に。テンポが速いので音符単位でのズレは感じないかもしれないが、そこが正確でないと 2 小節全体がグシャとした印象になってしまい、何をやっているのかわからなくなる（ズレているとしか聞こえず、ずらしている和音とは聞いてもらえない）。

・48 小節　全パート同じ D。メロディを聞いていればこの音にきれいに着地する。

・48 小節はフェルマータで止まる。

注：イタリアではフェルマータは「バス停」fermata dell'autobus、駅はスタツィオネ

音楽では、時間が止まるの意

（D 前半）49～60 小節

・各パートがどう入るか、という構成の全体感をつかんでおく（T2　寸足らずな感じだが慣れて）。

・ここの構成（パートが順番に重なるが、繰り返しでまた B2 だけになって、再度パートが重なってくる）は、61 小節からを大いに盛り上げる助走になっている。そこに向かっていてほしい。繰り返しでは一旦しっかりと落して、また盛り上げていくようメリハリつけて。

・B2　ずっと念仏のようにはならないで言葉もメリハリつけて、メインの歌詞に呼応させるように、「どうすんの、あの酔っ払い船乗りをどうすんだよ」とけしかけ、畳みかけるような雰囲気で、曲のベースとしてよどみなく支えることで、上のパートが乗っかってこれる。音が下がっていかないようフレーズのくくりでアゲアゲの意識で。

・T1T2B1 は B2 の D の音（クラシックでいう通奏低音？持続低音？）に乗っかるが、全パートの

音符の縦のリズム（拍）がそろっていないとぐちゃぐちゃになる。B2 をよく聞いてオンビートで。

（D 後半）61～68 小節 ここは難しいので頑張りましょう。

記載済：次回改訂時削除）

・次の E（ユニゾンで全パートのパワー集結）に向けて盛り上げていくところ。B2 も高音域に来ているので、どんどん盛り上がっていくように。

・B1　メロディなので、正確な音程キープが必達。メロディが正しく聞こえないと他パートのやっているいろんなことが映えない。

・T1T2　61～64 小節　Wey　hey　は　ウェィ　ヘーエーエイ（最後エイと言い直す：（6/4 にも同じ指摘あり））は、だらしなくならないこと。また、65 小節は　ウェィヘイと切らないと early につなげられない。

・67 小節　1 拍の裏の ly は T1T2 が C、B1B2 が A と、同じ音になることを意識。

・68 は rit.なし。減速無しのインテンポで DownTheHatch～に突っ込む。

（E 前半）69～76 小節

・D の盛り上がりの勢いそのままにノンストップ。

・全パートのユニゾンで、パワー集結して力強くフォルテ。

・hatch and の発音。「ハッチャン」はダメ。「ハチ　アンド」（ハッチではなくハチ）の感じ。

（E 後半）77～80 小節

・強弱記号に注意。F(85～92 小節)のフォルテを引き立たせるために、ここにメリハリを持たせる。

・T1T2B1　mp までいったん落とす。

・B2　　77～80 小節の強弱は　mp→f→mp→f。1 回目と 2 回目の「合いの手　she　ris-es」を f で強調する（ただし、up は mp なので注意）。

その際、she ris-is を際立たせたいのでここは全員ノーブレスで音を切らさない。

・B2　　81 小節からは mp にして次に備える。

（F） E の mp から f に切り替えて全開。ラス前の盛り上がりの山場とする。

・89 小節～

T2　新しいパターンなので音程きちんと。

B1　90 小節　u～～～p　（ア～～～プ）　（アプ～～～ではない）。

B1 だけ初めて出てくる譜割りなので、はじけて面白く。でも音程はしっかりと。

プまでで 2 拍なのでア～は 1.5 拍くらいか（ア～アプ）。そうしないと early が言えない。

91 小節　メロディなので音程音量ともにしっかりと。

（G）

・疲れが見え始めるが、ここをテンション Max のまま走り抜けるよう踏ん張って。

・エンディングに向け、入りはいったん落とす。クレッシェンド表記はないが、音が重なってくるので結果クレッシェンドのようになる。

・100～101 小節　全パート：　モー　ニー　イン（モー　オー　ニンではない）。100 小節は伸ばしすぎない。

・101 小節　全パート　1 拍目「イン」までしっかり伸ばしたら四分休符は一斉にバチッと音を切る。余韻を残さない。2 拍目の音の空間を作る（何度も指摘された殿堂入りの指摘）。

・109～111 小節　全パート　モーーー　ニー（　で、112 小節の 8 分音符が　イン　）